RACING PROGRAM 出走馬一覧表 2024.3.30

中山競馬場・阪神競馬場　［中山11R］ダービー卿チャレンジトロフィー(GⅢ)　［前日発売］大阪杯(GⅠ)

Dubai World Cup Day 2024

ドバイワールドカップデー

3月30日(土)

アラブ首長国連邦・ドバイ メイダン競馬場

ドバイゴールデンシャヒーン(G1)
Dubai Golden Shaheen

ドバイターフ(G1)
Dubai Turf

ドバイシーマクラシック(G1)
Dubai Sheema Classic

ドバイワールドカップ(G1)
Dubai World Cup

※変更情報はJRAホームページ等でご確認ください。

JRA

海外競馬解説者・合田直弘氏によるレース展望❶

ドバイゴールデンシャヒーン G1

ドバイ・メイダン競馬場　ダート1200㍍　3歳以上

日本時間3月30日(土)　23時25分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

今年のドバイゴールデンシャヒーンについて合田直弘氏が解説します。

昨年の覇者シベリウスら米国勢が日本のライバルか

悲願のこのレース初制覇を狙う日本勢は、4頭出しで臨む。

旗頭となるのが、2月24日のリヤドダートスプリント(G3、ダート1200㍍)を制し、昨年9月のコリアスプリント(G3、ダート1200㍍)に続く海外2勝目をマークしての参戦になる**リメイク**(牡5)だ。アウェイを全く苦にしないメンタルの強さは特筆モノで、メイダンの馬場も昨年経験済みである。

そのリヤドダートスプリントは6着だった**ケイアイドリー**(牡7)。使われてよくなるタイプで、休み明け2戦目のここは確実にパフォーマンスを上げて来るはずだ。

ダート1200㍍～1400㍍という条件に絞れば10戦7勝、2着2回と、抜群の安定性を誇るのが**ドンフランキー**(牡5)である。

そして、興味深いのが2年連続NAR年度代表馬の座に輝く**イグナイター**(牡6)の参戦だ。リメイクを2着に退けた昨年秋のJBCスプリント(JpnI、ダート1200㍍)を再現できれば、ここでも好勝負になる。

ダート1200㍍という競走条件から、日本調教馬にとって強敵となるのは米国勢で、中でも最もマークが必要なのが、昨年に続くこのレース連覇を狙う**シベリウス**(騙6)になろう。ガルフストリームパークのミスタープロスペクターS(G3、ダート1400㍍)、タンパベイダウンズのペリカンS(L、ダート1200㍍)を連勝しての参戦というのは、昨年と全く同じ臨戦態勢である。

昨年秋のブリーダーズカップスプリント(G1、ダート1200㍍)3着馬で、前走ペリカンSもシベリウスの3着だった安定勢力の**ナカトミ**(騙5)、3着だった前走リヤドダートスプリント後の状態が良く、ここに転戦することになったW.モット厩舎の**ボールドジャーニー**(牡5)らも、争覇圏にいる馬たちだ。

10か月の休み明けだった1月26日のアルシンダガスプリント(G3、ダート1200㍍)を6馬身3/4差で快勝して2度目の重賞制覇後、ここ1本に的を絞って調整されている**ムーヒーブ**(牡6)が、地元UAE勢の代表格となりそうだ。

●主な出走予定馬

馬　名	調教国	性齢	戦績	主な勝鞍
ケイアイドリー	日	牡7	25戦 8勝	23北海道スプリントC(JpnⅢ)
ドンフランキー	日	牡5	15戦 7勝	23東京盃(JpnⅡ)
リメイク	日	牡5	16戦 8勝	24リヤドダートスプリント(G3)、23コリアスプリント(G3)などG3/JpnⅢ/GⅢ・4勝
イグナイター	日	牡6	26戦12勝	23JBCスプリント(JpnI)
シベリウス	米	騙6	24戦 9勝	23ドバイゴールデンシャヒーン(G1)
ムーヒーブ	UAE	牡6	14戦 5勝	24アルシンダガスプリント、21UAE2000ギニー(以上、G3)

※イグナイターは地方・兵庫所属。

ケイアイドリー

ドンフランキー

リメイク

イグナイター

シベリウス

ムーヒーブ

当コーナーの情報は3月20日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。
当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

海外競馬解説者・合田直弘氏によるレース展望❷

ドバイターフ G1

ドバイ・メイダン競馬場　芝1800㍍　北半球産馬4歳以上、南半球産馬3歳以上

日本時間3月31日(日)　0時10分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

今年のドバイターフについて合田直弘氏が解説します。

強力・日本馬勢に4連覇狙うロードノースが対峙

過去10回で5勝(2022年は1着同着)と、日本調教馬と相性抜群なのがこのレースだ。今年日本陣営のエース格となるのが、昨年暮れの有馬記念(GⅠ、芝2500㍍)を制し、鞍上の武豊騎手ともども復活をアピールした**ドウデュース**(牡5)である。「忘れ物を取りに行く」ことをテーマに、現役に留まったのが今シーズンだ。まずは、現地まで乗り込んでいながら、態勢整わずゲートインすらできなかったこのレースを「回収」することが、ミッション完遂の第一歩となる。

前年の雪辱を果たすと言う意味では、1年前のこのレースが3/4馬身差の2着だった**ダノンベルーガ**(牡5)も、是が非でも1つ上の着順を目指したいところだ。

昨年秋に富士S(GⅡ、芝1600㍍)、マイルチャンピオンシップ(GⅠ、芝1600㍍)を連勝。もともと高く評価されていた素質がついに開花したのが**ナミュール**(牝5)だ。きついローテーションだった暮れの香港マイル(G1、芝1600㍍)も3着に健闘。たっぷり調整期間を設けて臨むここは、世界制覇へ機が熟している。

このレースの日本勢では最後に招待が決まった**マテンロウスカイ**(騙5)。中山記念(GⅡ、芝1800㍍)を勝っての参戦というのは、2014年のジャスタウェイ、22年のパンサラッサと同じ臨戦態勢である。

このレース、空前にしておそらくは絶後になろう4連覇に挑むのが英国調教馬**ロードノース**(騙8)だ。2月24日のウインターダービー(G3、AW2220㍍)で足慣らし(2着)を済ませ、出走態勢を整えている。

ロードノースと同じJ&T.ゴスデン厩舎の**ナシュワ**(牝5)。ここまで制した3つのG1はいずれも牝馬限定戦だが、昨年夏の英インターナショナルS(G1、芝2050㍍)でモスターダフから1馬身差の2着、昨年秋の愛チャンピオンS(G1、芝2000㍍)でオーギュストロダンから1/2馬身＋短アタマ差の3着に健闘。牡馬の一線級に入っても、全く見劣りをしない実力馬である。

地元ゴドルフィンの期待馬が、1月26日のジェベルハッタ(G1、芝1800㍍)を制し、2度目の重賞制覇を果たすとともに、通算成績を6戦5勝としたメジャードタイム(牡4)だ。その後、サウジのネオムターフC(G2、芝2100㍍)参戦プランもあったが、そこは回避し、ここ1本に照準を絞ってきた。

●主な出走予定馬

馬　名	調教国	性齢	戦績	主な勝鞍
ダノンベルーガ	●	牡5	10戦 2勝	22共同通信杯(GⅢ)
ドウデュース	●	牡5	12戦 6勝	23有馬記念、22日本ダービーなどGⅠ・3勝
ナミュール	●	牝5	14戦 5勝	23マイルチャンピオンシップ(GⅠ)
マテンロウスカイ	●	騙5	17戦 5勝	24中山記念(GⅡ)
ナシュワ	英	牝5	15戦 5勝	23ファルマスS、22ナッソーS、仏オークス(以上、G1)
ロードノース	英	騙8	21戦10勝	23・22・21ドバイターフ、20プリンスオブウェールズS(以上、G1)

ダノンベルーガ

ドウデュース

ナミュール

マテンロウスカイ

ナシュワ

ロードノース

当コーナーの情報は3月20日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。
当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

ドバイワールドカップデー 日本馬の足跡 Part①

ドバイゴールデンシャヒーン G1 ダート1200メートル

これまで2着が最高

世界のダートスプリンターたちが覇を争うドバイゴールデンシャヒーン。現在と同じメイダン競馬場のダート1200メートルで行われるようになった2015年以降の過去8回のうち（20年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催中止）、17年、18年を連覇したマインドユアビスケッツを筆頭にアメリカ調教馬が6勝と、ダート大国の底力を見せつけている。

日本調教馬においては、ナドアルシバ競馬場時代の02年から昨年までにのべ21頭が出走しているものの残念ながら優勝例はない。一方で2着に入ったことは3度あり、マテラスカイが19年に、レッドルゼルが21年と22年に2年連続で記録している。

近年では海外ダート短距離レースでの日本馬勝利も見受けられ、本競走での初勝利に期待が高まっている。

写真：REX／アフロ　2022年 レッドルゼル2着（右から2頭目）

●ドバイゴールデンシャヒーン 日本馬の主な成績

年	馬名	性齢	騎手	調教師	着順	人気
2022	レッドルゼル	牡6	川田　将雅	安田　隆行	2着	2人気
2021	レッドルゼル	牡5	R．ムーア	安田　隆行	2着	4人気
2019	マテラスカイ	牡5	武　豊	森　秀行	2着	5人気

※人気はJRAでの発売のもの。

昨年のレース

2023年 ドバイゴールデンシャヒーン

アメリカのシベリウス（写真右）が2022年の覇者・UAEのスイッツァランド（写真左）にハナ差勝利。これが初G1タイトルとなった。4頭が出走した日本勢はリメイクの5着が最高。

ドバイターフ G1 芝1800メートル

過去6勝の好成績

芝での開催となった2000年以降、本競走には日本調教馬がのべ29頭出走し、過去14回で実に6勝と、好成績を残している（22年のパンサラッサはイギリス馬ロードノースと1着同着）。

07年にアドマイヤムーンが日本馬として本競走初制覇。14年のジャスタウェイは2着馬に6.25馬身差をつけて圧勝したが、この時のレーティングは130であり、同年のロンジンワールドベストレースホースランキングで第1位に輝いている。16年にはリアルスティールが自身初のG1制覇を収め、翌17年はヴィブロスが日本の牝馬として本競走初勝利を果たしている。19年には前年の年度代表馬アーモンドアイが危なげない走りで勝利を収めているのも記憶に新しい。

2019年優勝馬 アーモンドアイ

●ドバイターフ　日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	人気
2022	パンサラッサ	牡5	吉田　豊	矢作　芳人	2人気
2019	アーモンドアイ	牝4	C．ルメール	国枝　栄	1人気
2017	ヴィブロス	牝4	J．モレイラ	友道　康夫	5人気
2016	リアルスティール	牡4	R．ムーア	矢作　芳人	
2014	ジャスタウェイ	牡5	福永　祐一	須貝　尚介	
2007	アドマイヤムーン	牡4	武　豊	松田　博資	

※人気はJRAでの発売（2017年以降）のもの。
ジャスタウェイ優勝時のレース名は、ドバイデューティフリー（G1）。アドマイヤムーン優勝時は、ドバイデューティフリー（G1）としてナドアルシバ競馬場 芝1777メートルで行われた。
2022年は1着同着（ロードノース、パンサラッサ）。

昨年のレース

2023年 ドバイターフ

2022年に日本馬パンサラッサと1着同着だったロードノース（写真左）がダノンベルーガに0.75馬身差をつけて優勝。連覇を飾った。セリフォス5着、ヴァンドギャルド14着。

ドバイワールドカップデー 日本馬の足跡 Part②

★ドバイシーマクラシック G1 芝2410メートル

実績馬が威厳を示したレース

アラブ首長国連邦（UAE）における芝中長距離路線の最高峰といえるドバイシーマクラシック。これまで日本調教馬は5勝を挙げている。

最初の勝利はG2格付けだった2001年。制したのは**ステイゴールド**で、これが日本調教馬として初のUAE勝利であった。

06年には有馬記念優勝馬**ハーツクライ**が4.25馬身差、14年には牝馬三冠馬の**ジェンティルドンナ**が1.5馬身差と、それぞれ貫禄の勝利を収めている。

その後、しばらく勝利から遠ざかっていた日本馬であったが、22年に日本ダービー馬**シャフリヤール**が優勝すると、翌23年も年度代表馬**イクイノックス**が制しており、2年連続で日本馬が勝利を飾っている。

2014年優勝馬 ジェンティルドンナ（左）

●ドバイシーマクラシック　日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	人気
2023	イクイノックス	牡4	C.ルメール	木村　哲也	1人気
2022	シャフリヤール	牡4	C.デムーロ	藤原　英昭	4人気
2014	ジェンティルドンナ	牝5	R.ムーア	石坂　正	
2006	ハーツクライ	牡5	C.ルメール	橋口弘次郎	
2001	ステイゴールド	牡7	武　豊	池江　泰郎	

※人気はJRAでの発売（2017年以降）のもの。
ハーツクライ優勝時は、ナドアルシバ競馬場 芝2400㍍で行われた。ステイゴールド優勝時は、G2としてナドアルシバ競馬場 芝2400㍍で行われた。

昨年のレース

2023年 ドバイシーマクラシック

逃げたイクイノックスが2着に3.5馬身差をつけて圧勝。走破タイムの2分25秒65は従来の記録を1秒縮めるコースレコードであった。シャフリヤール5着、ウインマリリン6着。

★ドバイワールドカップ G1 ダート2000メートル

世界的なレースで2度の栄冠

賞金総額1200万米ドルと、世界屈指の高額賞金レースとして名高いドバイワールドカップ。日本調教馬は、1996年の第1回開催に出走したライブリマウント（6着）を皮切りに、これまでのべ44頭が参戦、2勝を挙げている。

最初の勝利は2011年。当時はオールウェザー馬場での実施だった本競走で、芝のGI馬**ヴィクトワールピサ**とダートGI馬トランセンドが日本馬ワンツーフィニッシュを成し遂げた。この勝利は直前に起こった東日本大震災に沈む日本に対する大きな励ましともなった。

本競走は15年から6年ぶりにダート開催へ回帰。以降は、チュウワウィザードの2着（21年）が最高着順であった日本馬だったが、23年に**ウシュバテソーロ**がダート開催として初制覇を成し遂げている。

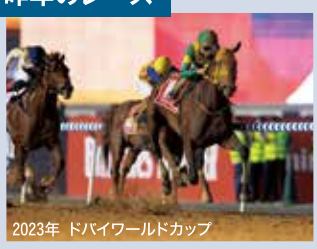
2011年優勝馬 ヴィクトワールピサ（中央）

●ドバイワールドカップ　日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	人気
2023	ウシュバテソーロ	牡6	川田　将雅	高木　登	4人気
2011	ヴィクトワールピサ	牡4	M.デムーロ	角居　勝彦	

※人気はJRAでの発売（2017年以降）のもの。
ヴィクトワールピサ優勝時は、オールウェザー馬場で行われた。

昨年のレース


2023年 ドバイワールドカップ

日本馬8頭が出走し、ウシュバテソーロ（緑帽）が優勝。テーオーケインズ4着、クラウンプライド5着、パンサラッサ10着、ジオグリフ11着、カフェファラオ12着、ヴェラアズール13着、ジュンライトボルト15着。

海外競馬解説者・合田直弘氏によるレース展望❸

ドバイシーマクラシック G1

ドバイ・メイダン競馬場　芝2410㍍　北半球産馬4歳以上、南半球産馬3歳以上

日本時間3月31日(日)　1時00分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

今年のドバイシーマクラシックについて合田直弘氏が解説します。

日本馬の“容易ならざる敵” オーギュストロダン

イクイノックスの走りに世界が驚愕してから1年。今年もここが、日本発のニュースター誕生の舞台となるか。

その素養を充分に備えているのが**リバティアイランド**(牝4)だ。昨年の牝馬三冠馬で、ジャパンカップ(GI、芝2400㍍)ではイクイノックス以外の後塵を拝することなく2着を死守。そのジャパンカップとオークス(GI、芝2400㍍)で、2023年の世界ランキングで牝馬首位タイとなるレーティング121を獲得している。

6か月以上の休み明けだったにも関わらず、リバティアイランドから1馬身差の3着に入ったジャパンカップ。大外枠から、勝ち馬ドウデュースに半馬身差まで迫った有馬記念(GI、芝2500㍍)と、昨年終盤に内容の非常に濃いレースを2戦続けたのが**スターズオンアース**(牝5)だ。

一昨年に続くこのレース2度目の優勝を目指す**シャフリヤール**(牡6)、天皇賞(春)(GI、芝3200㍍)をメンバー最速の上がり3ハロン(推定34秒9)で制した**ジャスティンパレス**(牡5)らも、争覇圏にいる馬たちだろう。

芝2410㍍という競走条件だけに、欧州勢が手強い。中でも、ディープインパクト最終世代の1頭で、3歳だった昨年、2000㍍～2410㍍路線のG1を4勝している**オーギュストロダン**(牡4)は、メイダンの馬場適性も高そうで、容易ならざる敵となりそうだ。

4歳だった2022年、ブリーダーズカップターフ(G1、芝2400㍍)を含めてこの路線のG1を3勝している**レベルスロマンス**(騙6)。その後調子を落としていたが、今年2月17日のアミールT(G3、芝2400㍍)を3馬身差で快勝し、復活をアピールした。馬主のゴドルフィンはここまで6勝、騎乗するW.ビュイックはここまで4勝という、このレースの最多勝馬主／騎手である。

2月24日のネオムターフC(G2、芝2100㍍)を制し、昨年11月のバーレーンインターナショナルT(G2、芝2000㍍)に次ぐ国際競走制覇を果した英国調教馬**スピリットダンサー**(騙7)も、侮れない存在だ。

●主な出走予定馬

馬　名	調教国	性齢	戦績	主な勝鞍
ジャスティンパレス		牡5	13戦 5勝	23天皇賞(春)(GI)
シャフリヤール		牡6	14戦 4勝	22ドバイシーマクラシック(G1)、21日本ダービー(GI)
スターズオンアース		牝5	12戦 3勝	22オークス、桜花賞(以上、GI)
リバティアイランド		牝4	7戦 5勝	23オークス、桜花賞などGI・4勝
オーギュストロダン		牡4	10戦 7勝	23ブリーダーズカップターフ、英ダービーなどG1・5勝
レベルスロマンス		騙6	17戦11勝	22ブリーダーズカップターフ、オイロパ賞、ベルリン大賞(以上、G1)

ジャスティンパレス

シャフリヤール

スターズオンアース

リバティアイランド

オーギュストロダン

レベルスロマンス

当コーナーの情報は3月20日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。
当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

海外競馬解説者・合田直弘氏によるレース展望④

ドバイワールドカップ G1

ドバイ・メイダン競馬場　ダート2000㍍　北半球産馬4歳以上、南半球産馬3歳以上

日本時間3月31日(日)　1時35分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

今年のドバイワールドカップについて合田直弘氏が解説します。

連覇か新チャンピオンか サウジC覇者にも注目

昨年に続く連覇に挑むウシュバテソーロ(牡7)。2月24日のサウジC(G1、ダート1800㍍)でも持ち前の爆発的な末脚を繰り出し、勝利をほぼ手にしたかに見えたが、自分より後ろから来る馬に差されるという想定外の事態が起き、僅差の2着に泣いた。距離が200㍍延びるここそが、本領発揮の舞台となる。

輸送中に顔面に外傷を負うという、これも想定にないアクシデントに遭遇したのがサウジにおけるデルマソトガケ(牡4)だった。だがそれでも勝ち馬から0秒47差の5着に食い込み、見苦しい競馬はしなかった。メイダンは昨年、UAEダービー(G2、ダート1900㍍)を快勝して高い適性を実証しているコースだけに、頂点に上り詰めておかしくない一戦だ。

陣営が早くからウシュバテソーロと互角の資質を持つと高く評価していたウィルソンテソーロ(牡5)が、満を持して世界の檜舞台に立つ。脚質に自在性があるのが強みだ。

一見すると成績にムラがあるようでいて、条件をダート1700㍍～2000㍍戦に限れば、4戦1勝、2着1回、3着2回と、全く崩れていないのがドゥラエレーデ(牡4)である。

日本馬の前に立ちはだかる最大の敵は、サウジCを制した米国調教馬セニョールバスカドール(牡6)だ。ここもハイペースで流れるようなら、前走の再現がありそうである。ただし、4歳秋までは1600㍍以下を主戦場としていた馬で、2000㍍戦はこれまで3度走って3着以内に来たことは一度もない。ここでは、ゴール前の詰めが甘くなる心配がある。

米国産馬ながら、1歳秋に上場された市場で1万2000ドル(当時のレートで約132万円)で購買され、カザフスタンでデビューしたのがカビールカーン(牡4)だ。カザフスタンとロシアで9戦8勝の成績を残した後、今季からドバイに移籍し、初戦となったハンデ戦(3歳以上条件。ダート2000㍍)、続くアルマクトゥームチャレンジ(G1、ダート1900㍍)をいずれも楽勝。未知の魅力に溢れた1頭である。

●主な出走予定馬

馬　名	調教国	性齢	戦績	主な勝鞍
ウィルソンテソーロ	日	牡5	15戦 7勝	23白山大賞典、マーキュリーCなどJpnⅢ・3勝
ウシュバテソーロ	日	牡7	33戦11勝	23・22東京大賞典(GI)、23ドバイワールドC(G1)などGI/G1/JpnI・4勝
デルマソトガケ	日	牡4	11戦 4勝	22全日本2歳優駿(JpnI)
ドゥラエレーデ	日	牡4	12戦 2勝	22ホープフルS(GI)
カビールカーン	UAE	牡4	11戦10勝	24アルマクトゥームチャレンジ(G1)
セニョールバスカドール	米	牡6	18戦 7勝	24サウジC(G1)

ウィルソンテソーロ

ウシュバテソーロ

デルマソトガケ

ドゥラエレーデ

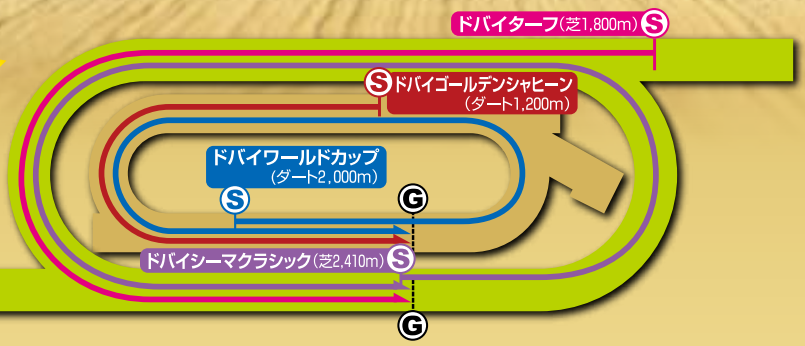
カビールカーン

セニョールバスカドール

当コーナーの情報は3月20日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。
当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

Meydan Racecourse

メイダン競馬場コース紹介



メイダン競馬場はアラブ首長国連邦(UAE)を代表する競馬場。G1ドバイワールドカップ(ダート2000㍍)を頂点としてサラブレッドによる5つのG1を含む8つの重賞を1日でまとめて行い(他にアラブによるG1も1レース施行)、UAEの競馬におけるハイライトとなっている「ドバイワールドカップデー」の舞台となるだけでなく、UAEで施行されるサラブレッドの重賞32レースの内、実に31レースの開催場となっており、7つあるG1は全てここで行われている(2023／24年シーズンの日程)。

メイダン競馬場がオープンしたのは2010年1月28日のこと。それまでのナドアルシバ競馬場に替わる競馬場として、その隣接地に約1800億円もの巨費を投じて建設された。隣り合うホテルと合わせれば全長1㌔を超えるスタンドは圧倒的なスケールを誇る。

競馬場は、楕円型左回りの平坦コースで、1周2400㍍(最後の直線450㍍)の芝コースと、その内側に1750㍍(最後の直線400㍍)のダートコースというレイアウト。芝コースでは2コーナーと4コーナーにそれぞれ1本、ダートコースでは2コーナーに2本のシュート(引き込み走路)が設けられており、これらを組み合わせる形でレースが開催されている。

芝は、ベースとなるバミューダグラスにペレニアルライグラスをオーバーシードした馬場で、香港のシャティン競馬場と同じ。ダートは、日本のダートよりも細かい砂が多く、アメリカのダートに近い印象がある。

(海外競馬評論家・秋山 響)

勝馬投票券の購入方法、レース視聴方法などは本誌モノクロページおよびJRAホームページにてご確認ください。
発走時刻などは変更となる場合があります。変更情報はJRAホームページでご確認ください。

JRAホームページ海外発売

表紙写真:
右:イクイノックス(2023年ドバイシーマクラシック優勝馬)
左:ウシュバテソーロ(2023年ドバイワールドカップ優勝馬)